

## 通訳(英語)

2006年11月21日(火)  
伊庭 みか子 (株)マイ アソシエイツ

### 1) 通訳の種類

- 会議通訳：商談、交渉、表敬訪問など。
- 国際会議や講演会など
- ジャーナリストのインタビュー、取材関連の通訳
- ビデオ、テレビの番組制作にかかわる通訳
- 研修やトレーニングの通訳
- 交流イベントの通訳：司会者、発表者、パフォーマンスなどの通訳
- エキスポや商品展示会などのフェアのブースやパビリオンの通訳
- 工場見学、視察、観光などの通訳
- 食事やちょっとした集まりでの非公式な通訳、個人的な通訳（病院や法律相談など）

### 2) どの種類の通訳をするかによって、通訳の仕方や求められる技術は異なる。

- 共通しているのは
  - ・ 聞き手がある場で通訳を聞いて理解できること。
  - ・ 聞きやすいこと。（発音が均等で判りやすい文章であること）
  - ・ 話し手よりも通訳が長く話さないこと。
  - ・ 誤訳や聞き取りミスに気づいたらすぐに訂正すること。
  - ・ 話し手の品格や肩書き、年齢などにあった言葉で訳すこと。
  - ・ 場の雰囲気や乱さないこと。
  - ・ 通訳の存在を出来る限り忘れてもらえること。（特にディスカッションの場合など）
  - ・ 交渉の場などでは、中立を守ること。（但し必ずしもそうではない場合もある。）

### 3) 通訳に求められる基本的技術

- その場で話し手の発言内容を理解すること。（Comprehension）
- 日本語は英語に英語は日本語に、即座に自然な文章に置き換えられること。（fluency）
- 即座にもっとも的確な用語を使用できること。（flexibility）
- 話し手の話した内容を忘れないこと。（Retention）
- 発音と発声が正確で聞きやすいこと。（Speech/presentation ability）
- 同時通訳とウイスパリングでは、『耳と口が同時に異なる言語を理解していること。』

### 4) 場合によっては下記のようなことも求められる

- 雰囲気を盛り上げられる通訳（イベントやパーティなど）
- スピーカーになり切って、スピーカーと同じテンションで通訳できること（演説など）
- 通訳する相手の意図を最大限に引き出せること（パフォーマンスなど）
- スピーカーの発言にプラスアルファした通訳（伝統芸能や、習慣、しきたり、特有の文化や法律にかかわる発言の場合、聞き手にわかりにくい時など）

### 5) 通訳は単純に『口と耳』の技術であって、会話能力は二次的な技術

- バイリンガル＝優秀な通訳、優秀な翻訳者＝優秀な通訳ではない。
- メモはあくまでも補助的な役割。